

2019 年度専門演習 2（松本ゼミ）説明会資料

I 2019年度ゼミの概要

●オープニング

・2018 年 6 月横浜街歩き、9 月金沢合宿のスライド（BGM は、ゼミ第 1 応援歌「広場と僕らと青空と」、ゼミ第 2 応援歌「自由なる大地へ」）

●ゼミのテーマ

都市再生の文化戦略

●ゼミの目標

文献学習とフィールドワークをとおして、グローバル時代の都市再生戦略として注目される「創造都市」政策や文化とまちづくりの関係について、横浜市と金沢市を事例に検討する。

●授業の方法

グループワークによる共同研究。

●地域調査のやり方を学ぶ

- ・個人研究では、なかなか地域調査に踏み出せない。
- ・2009 年度は、三鷹市を事例に、地域調査を共同で体験することに重点をおいた。
- ・2010 年度からは、三鷹調査の経験をもとに、「国際都市の文化戦略」というテーマを掲げ、横浜市を事例とする調査に取り組むことに。
- ・2014 年度からは、さらにステップアップを図り、「都市再生の文化戦略」という一般的な視点から、横浜調査を継続して、研究の深化をめざすことに。
- ・2018 年度は横浜市に加えて、金沢市を事例に追加。
- ・2019 年度は、横浜市と金沢市を事例にする。

II 横浜市の創造都市政策

1. 横浜市の概要

●横浜市の概要

人口約 370 万人の政令指定都市。人口は東京 23 区に次いで 2 位。政令指定都市では全国 1 位。東京 30 キロ圏にある衛星都市で、東京の影響を受けやすい。

●横浜市の誕生

1854 年 米国提督ペリーが横浜に上陸。日米和親条約締結。

1858 年 日米修好条約により、横浜に外国人居留地が計画される。

1859 年 横浜開港。

1889 年 市制施行（人口 11 万 6 千人、面積 5.40k m²）。

開港以来、国際貿易都市として発展。

●横浜市の発展と苦難

1899 年 外国人居留地廃止（関内地区）。

1923 年 関東大震災で壊滅的打撃を受ける。

1945 年 横浜大空襲により再び壊滅的打撃を受ける。

敗戦後、都市中心部の主要施設は、米軍に接収され、他都市に比べて接収解除が遅れる。
そのため、旧都心部は一時衰退。

2. 飛鳥田市政と六大事業

●六大事業

1956 年 政令指定都市に。

1963 年 飛鳥田市政誕生（～ 1978 年）。

1965 年「都市づくりの将来計画の構想」（六大事業）を発表。現在の都市の骨格をつくる。

①都心部強化（横浜駅周辺と米軍に接収されて開発が遅れていた関内地区とを三菱造船所の移転と埋め立てによって結ぶ→みなとみらい 21）

②金沢地先埋め立て（工業用地を確保して、三菱重工の移転先とする）。

③港北ニュータウン（乱開発を抑制し、横浜市の意向に沿ったニュータウン開発を誘導）。

④高速道路

⑤高速鉄道（横浜駅を結節点とする市営地下鉄網の建設）

⑥ベイブリッジ（通過交通の迂回路を横浜港のシンボルとなるベイブリッジとする）。

●都市デザイン行政

・ 1971 年 企画調整室に都市デザイン担当を置く（後の都市デザイン室）。

・ 歩道の絵タイルから、みなとみらい 21 のスカイライン形成まで。

※飛鳥田一雄は、社会党委員長になって、1978 年に市長を辞任。その後、24 年間、官庁の天下り市長の時代が続く。しかし、六大事業とデザイン行政は継続。

●歴史的建造物の保存と活用（歴史を生かしたまちづくり条例）

1988 年、日本興亜馬車道ビル（旧川崎銀行横浜支店を建て替え、一部、外観のみ保存）。

2002 年、赤レンガ倉庫オープン（横浜トリエンナーレ 2001 で暫定活用）。

●文化行政

・ 教育委員会所管の社会教育行政から、首長部局所管の文化行政に移行。

（財）横浜市芸術文化振興財団が設立され、横浜美術館や赤レンガ倉庫の管理運営を担当。

・ 2001 年からは横浜トリエンナーレを開催。

3. 創造都市政策の背景

●旧都心部の衰退

- ・ 2000 年前後に、旧都心部は再び衰退の兆しが現れた。
- ・ 金融のグローバル化による銀行の再編でいくつかの銀行建築が不要になった。
- ・ バブル経済崩壊以降停滞してい

た東京の再開発が再始動し、2003 年にオフィススペースの過剰供給が予想された。

- ・ 2004 年にみなとみらい線の開通が見込まれ、マンション需要が増大した。
- ・ 港町を象徴する旧都心部の景観が壊される→歴史的建築物の保存と活用へ。

●創造都市政策の開始

2002 年、中田市政誕生（～ 2009 年 8 月）。元市職員の北沢猛東大助教授を参与に。

2002 年 11 月「文化芸術・観光振興による都心部活性化検討委員会」発足。

2003 年 3 月、中間とりまとめ。→文化・芸術活用実験事業。

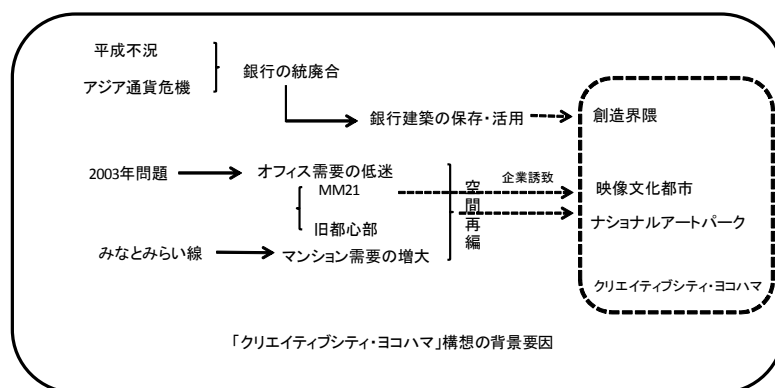
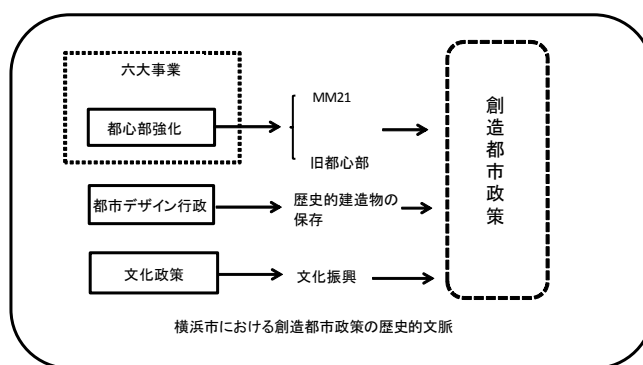
2003 年 10 月「クリエイティブ・シティセンター」事業として運営団体を公募。

2003 年 12 月、旧第一銀行、旧富士銀行の活用実験事業の運営団体として、ST スポット横浜と YCCC プロジェクトが決定。→ 2004 年 3 月、NPO 団体「BankART1929」として事業開始。

2004 年 1 月「文化芸術・観光振興による都心部活性化検討委員会」が最終報告書として「文化芸術創造都市——クリエイティブシティ・ヨコハマの形成に向けて」を提言。

①創造界限形成、②映像文化都市、③ナショナルアートパーク構想

2004 年 4 月 庁内に文化芸術都市創造事業本部設置（現在は文化観光局）



4. 横浜市の創造都市政策の展開

●創造界限形成

<旧第一銀行>

BankART1929 YOKOHAMA（2004 年 3 月～ 2009 年 3 月）→クリエイティブシティ・センター（2009 年 4 月～ 2015 年 3 月 [2010 年 4 月創造都市センターに改称]、横浜市芸術文化振興財団管理）→ 2015 年 6 月 NPO 法人 YCC へ運営を委託。

<旧富士銀行>

BankART1929 馬車道（2004 年 3 月～ 10 月）→東京芸術大学映像研究科映画専攻（2005 年 4 月～）

<日本郵船海岸通り倉庫>

旧富士銀行の代替施設として→ BankART NYK（2005 年 2 月～ 2018 年 3 月）

<旧帝蚕倉庫事務所ビル>

森ビルの提案により、再開発のため取り壊すまでオフィスビルを、北仲 BRICK & 北仲 WHITE（2005 年 7 月～ 2006 年 10 月）として暫定活用。

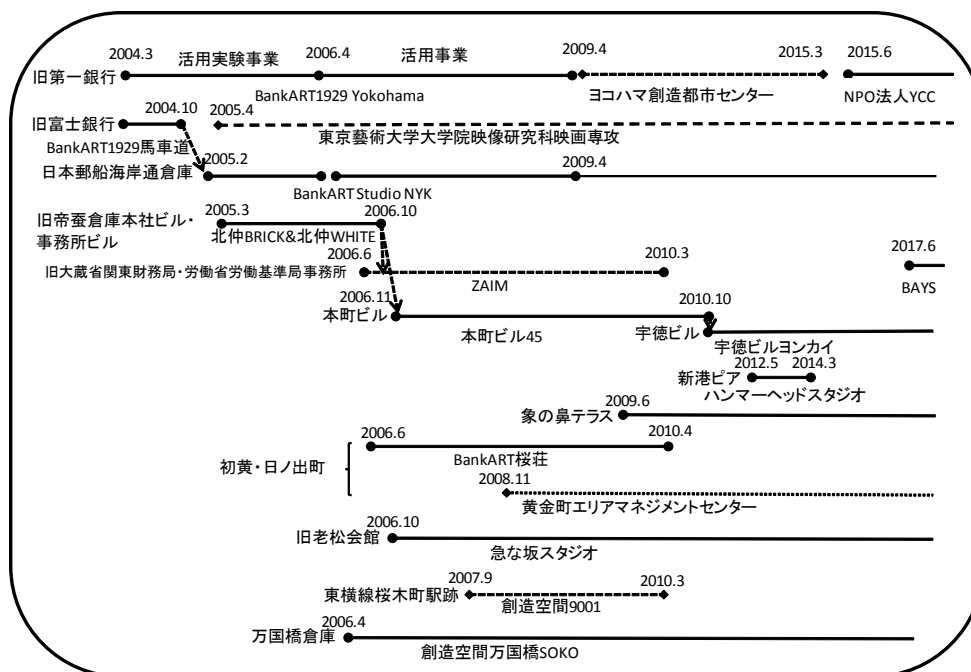
<旧大蔵省関東財務局事務所・旧労働省労働基準局事務所>

・日本綿花横浜支店→米軍接收→大蔵省関東財務局事務所・労働省労働基準局事務所→横浜市取得（2002 年）

・ヨコハマトリエンナーレ 2005 で、トリエンナーレ事務局として使用。

・2006 年 6 月～「ZAIM 本館・別館」として、北仲 BRICK&WHITE のアーティストが移転。2010 年 3 月、老朽化が著しいため閉鎖。

・2017 年より DeNA に運営委託。スポーツ×クリエイティブ拠点 BAYS として運用。



<本町ビルシゴカイ>（旧帝国火災ビル）

㈱八幡の本社ビル。2006 年 11 月、北仲 BRICK&WHITE の後続として建築事務所などが入居。2010 年 10 月、建て替えのため閉鎖。入居者は、宇徳ビルへ移転。

<宇徳ビルヨンカイ>

2010 年 10 月～ 本町ビル・シゴカイの後継として建築事務所など 17 組が入居。BankART1929 が管理。

<ハンマーヘッドスタジオ「新・港区」>

・2012 年 5 月 BankART1929+新港ピア活用協議会が運営するハンマーヘッドスタジオ「新・港区」がオープン。

- ・もともと横浜トリエンナーレ 2008 の会場として、横浜市が建設。土地は国から借りる。
- ・トリエンナーレ 2011 では、BankART の特別連携プログラム「新・港村」の会場として使用。その後、横浜市が利用団体を公募し、BankART が受託。
- ・2014 年 5 月まで、約 50 組のアーティスト、クリエイターがスタジオとして利用。
- ・2014 年ヨコハマ・トリエンナーレ 2014 の 3 つ会場のひとつとして利用。
- ・現在は取り壊されている

<黄金町>（初黄・日の出地区）

- ・違法売春地域の拡大に対して住民が追い出しを決意。
- ・2005 年 神奈川県警、一斉取り締まり。
- ・空いた施設を、市が借り上げて若手アーティストのスタジオとして提供。
- ・2008 年 黄金町バザール開催（横浜トリエンナーレ 2008 の開催期間中）。

以後、管理物件を増やしながら、黄金町エリアマネジメントセンターを中心に地域再生をめざす。

<急な坂スタジオ>

使われなくなった市営結婚式場を、舞台芸術（演劇・ダンス）の稽古場に転用（2006 年 4 月～）。

<象の鼻テラス>

2009 年、横浜開港 150 周年を記念して整備された港湾緑地「象の鼻パーク」に設置された「無料休憩所」。文化芸術の発信拠点として、ワコール・アートセンターが運営。

2011 年～スマートイルミネーション、2014 年～パラトリエンナーレ。いずれも象の鼻テラスを拠点とした活動から発展。

●映像文化都市

- ・当初の計画では、MM21 に映像系企業を誘致し、創造産業クラスターを形成することになっていた。
- ・2008 年に、セガが進出を中止。横浜市が土地を買い戻すことに。
- ・2005 年以降、馬車道・新港地区に、東京藝術大学映像研究科の 3 専攻が次々に立地。
- ・映像文化都市が、産業政策から人材育成政策に変わる。

●ナショナルアートパーク

- ・ナショナルアートパーク構想は、創造都市の空間政策。
- ・2006 年に見直され、より詳細な構想に。
- ・2009 年、開港 150 周年記念事業として「象の鼻パーク」「象の鼻テラス」を整備。
- ・2015 年策定の「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」に更新される。

●構想の見直し

- ・2009 年、中田市長辞任。林文子市政に転換。
- ・2012 年、林市政の局再編により、創造都市事業本部は廃止となり新設の文化観光局が担当することに。12 月「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」発表
- ・2015 年、「創造都市アクションプラン」を発表。創造産業振興や創造拠点の営利企業委

託などの動きが顕著。

5. 2020 年に向けて

- ・ 2019 年 ラグビーワールドカップ 決勝戦
- ・ 2020 年 オリンピック・パラリンピック東京大会 サッカー、野球・ソフトボール
- ・ 2020 年 次回の横浜トリエンナーレ、パラトリエンナーレ。
- ・ 2019 年～2020 年、横浜市庁舎の北仲移転。跡地利用が焦点に。
- ・ 横浜駅周辺大改造計画「エキサイトよこはま 22」／山下埠頭の再開発／みなとみらい企業誘致の最終段階。

Ⅲ 金沢市の創造都市政策

●金沢市の概要

- ・ 人口約 46 万人、北陸地方の中核都市
- ・ 15 世紀後半：加賀一向一揆の拠点→16 世紀後半：戦国大名前田利家の居城に。
- ・ 江戸時代は前田藩「百万石の城下町」→伝統工芸：金箔、加賀友禅、象嵌など。
- ・ 明治以降は、1890 年代に軽工業と機械工業が発展。繊維産業と織機産業が中心。鉄鋼
- ・ 造船などの重工業は発展しなかった。

●戦後の「内発的」発展

- ・ 第二次世界大戦では、米軍の空襲を免れた。
- ・ 重化学工業化に失敗。1963 年、新産業都市指定は、富山・高岡に。
- ・ 1964 年「長期 15 ヶ年計画」策定、産業文化都市として人口 40 万人をめざす。
- ・ 1970 年「金沢 60 万都市構想」
- ・ 1972 年 社会党岡良一市長当選。
- ・ 1974 年、新長期計画でシビルミニマム計画を策定。
- ・ 1977 年人口 40 万人を超える。
- ・ 1978 年、江川昇市長当選（元助役、保革相乗り）

●城下町の再発見

- ・ 1982 年、金沢 400 周年。
- ・ 1985 年 金沢市基本構想「市民主体、豊かな人間環境の構築、国際的文化産業都市」
- ・ 1990 年、山出保市長当選。
- ・ 1994 年 金沢大学の移転完了（都心部の空間再編）。
- ・ 1995 年 金沢世界都市構想
- ・ 1996 年 市民芸術村（大和紡績金沢工場の跡地利用）*
- ・ 1999 年 泉鏡花記念館
- ・ 2001 年 東山ひがし地区、重要伝統的建築物保存地区に指定、まちづくり協定締結*。
- ・ 2002 年 室生犀星記念館開館。
- ・ 2003 年 県庁舎移転。
- ・ 2004 年 金沢 21 世紀美術館開館*。

●新幹線開業に向けて～クラフト創造都市

- ・ 2004 年 長野～金沢間新幹線建設決定。

- ・2005 年 徳田秋声記念館開館
- ・2006 年 金沢世界都市構想第二次基本計画 保全と開発の調和と成長管理を基本としたコンパクトなまちづくりをめざす
- ・2008 年 ラ・フォル・ジュルネ第1回開催。(音楽祭)
- ・2009 年 ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が決定。クラフト部門。
- ・2010 年 12 月 山野之義市長。(ソフトバンク、市議、自民党から無所属へ)。山出(民主、社民、国民新党推薦、公明支持)を僅差で破る。
- ・2015 年 北陸新幹線開業

IV ゼミのスケジュール

春学期

(1)都市社会学と横浜市の「創造都市」政策の概要を理解する<4～5月>

- ・松本康編(2014)やゼミ報告書などを参考に、都市社会学の視点と横浜市・金沢市の創造都市政策の概要を理解する。
- ・街歩きを企画する<5月下旬～6月上旬> 横浜関内地区街歩き
- ・市役所職員(文化観光局創造都市推進課を予定)からレクチャーを受ける<6月下旬>

(2)調査課題を絞る<6月>

- ・前年度の調査結果を踏まえ、今年度の調査課題を確定。班編成。

(3)既存の文献資料・統計資料を集めて分析する(班別)。<6～7月>

- ・文献資料・統計資料・ウェブサイトの検索によって情報を収集する。
- ・収集した情報を整理して、インタビュー調査の準備をする。

夏期休暇中

(4)インタビュー調査を実施する(横浜市：班別)。<8月上旬を予定>

- ・班ごとに、市役所担当職員、市民団体・地域団体リーダー、アーティスト、活動的な市民などキーパーソンへの聞き取り調査を実施する。
- ・調査の方法は、原則として、半構造化面接調査とイベントへの参与観察。いわゆるアンケート調査は行わない。

(5)合宿<9月下旬>

- ・各自のライフヒストリーをもとに総当たりグループ・ディスカッション
- ・調査の結果の報告。
- ・金沢市でのインタビューとフィールドワーク

秋学期

(6)研究報告書(期末論文)のレジュメを作成する<9月～11月>

- ・必要に応じて、フォローアップ調査や参考文献の探索・収集・学習を行う(班別)。
- ・テーマに関連する一般的・理論的な基本文献について学習する(全体)。
- ・ディスカッションにもとづき、報告内容をレジュメにまとめる(全体)。
- ・執筆分担を決め、レジュメを再確認する。

- ・ 報告書（論文）のフォーマットについて確認する。

(7)研究報告書の原稿を執筆する< 11月～1月>。

- ・ 分担にもとづき研究報告書の原稿を執筆する。
- ・ 原稿の読み合わせを行い、修正する。
- ・ 研究報告書を編集する。

V 卒論について

横浜・金沢調査の経験を踏まえて、各自、卒論のテーマを考えてください。卒論のテーマは、ゼミの調査に関係することでも良いし、まったく別のテーマでもかまいません。

理想的には、3年次であらかじめ卒論のテーマを考えておいて、横浜・金沢調査の経験を踏まえて、問題意識を深め、自分自身の研究計画を立てて、少しずつ準備するのがよいでしょう。

4年次卒論演習のスケジュール（2017年度の場合）

松本ゼミ独自の『卒論作成マニュアル』を配布。

春学期：各自構想発表 一人当たり3回発表。

秋学期：進行状況確認→個別指導→（草稿提出→修正→提出）

●卒論タイトル

< 2017年度卒論タイトル>

市民と観光の共生について―鎌倉市における交通問題を例に―／日本の幼児教育からみる少子化改善について／集合行動論から見る B 級グルメに関する研究／首都圏における空き家再生と貧困／東京郊外の再開発／地方再生におけるふるさと納税の活用に関する研究／古民家再生モデルと地域活性化に関する研究／ニュータウンの現状と課題について／寿町における簡易宿泊所の需要に関する研究／現代における伝統宗教の新しいあり方を考える―活気づくお寺イベントの事例から／テーマパークを利用した地域活性化について／スポーツ雑誌に描かれたアスリート―ジェンダー視点における分析／市民協働によるまちづくり―埼玉県川越市一番街商店街を事例として／福岡県糸島市を事例に見る市町村合併と地域活性化に関する研究／少子高齢化社会におけるシニア世代の活躍の必要性とその活躍環境に関する研究／下北沢駅周辺再開発が地域個性に与える影響に関する研究／創造都市における文化の外部性の研究／介護保険制度下における介護職の低賃金問題と制度の持続可能性に関する研究／東京における内発的発展の研究

●過去3年間の就職先

< 2017年度就職先>

JTB グループ（総合職）／三井住友海上／ TOTO ／ NTT コミュニケーションズ／みずほ銀行／ランテック／東京海上日動／株式会社オプト／三井住友海上／郵船ロジスティクス／プロクター&ギャンブル・ジャパン／小川珈琲株式会社／警視庁行政職／日鉄住金物産／朋 JSP ／損害保険ジャパン日本興亜／株式会社アイエム／清水建設／

< 2016 年度就職先 >

セディナ／四国電力／三井住友海上／カシオ／（株）ルネサンス／かんぽ生命／ NTT コミュニケーションズ／日本ガイシ／富士ソフト／ J A F／厚生労働省／ IHI 運搬機械／丸井グループ／中野区役所／富士電機／東武プロパティ／片倉工業

< 2015 年度就職先 >

千葉銀行／横浜信用金庫／清水銀行／株式会社トップ／日本生活協同組合連合会／エプソン／パナソニックシステムネットワークス／日本ガイシ／商工中金／ビッグホリデー／明治安田生命／富士急行／練馬区役所／三菱東京 UFJ ニコス／東京 MX テレビ／東京大学大学院研究生

VI 課題の説明

自分の関心のある生活領域を選んで 1600 字以内。

面接では、1) レポートの口頭発表、

2) ゼミの志望理由、

3) 卒論でなにを書きたいか、

4) これまでの大学生活で何を学んできたか、

5) 横浜と金沢のどちらを担当したいか

について質問します。

VII 最後に

「社会学」に閉じこもらず、政治・行政、建築・都市計画、芸術・文化、市民協働、NPO、まちづくり、福祉、多文化共生、国際交流などに関心のある学生を求めます。

松本ゼミの 3 カ条

1. 明るく楽しく！

2. 連絡を密に！

3. ほんのちょっとの勇気を！

松本ゼミ第一応援歌「広場と僕らと青空と」

http://bunbun.boo.jp/okera/haho/hiroba_bokura.htm

第二応援歌「自由なる大地へ」

http://bunbun.boo.jp/okera/saso/jiyu_daichihe.htm

※ 2019 年度 社会調査士 G 科目申請予定（毎年度申請して認められています）。

ゼミ紹介はこちらにも（大学受験パスナビサイト）

<https://passnavi.evidus.com/article/guide/201809/02/>